

職員の初動状況

職員の活動記録

## 台風第9号災害当日における職員の初動状況

### 1. 命令時間(3号配備による全員召集)

	配置可能人数	8月9日		8月10日			その他(※1)
		22時まで	22~24時	0~2時	2~4時	4時以降	
本庁	164	14	4	85	23	7	31
一宮市民局	54	5	10	7	3	1	28
波賀市民局	42	2	11	4	11	3	11
千種市民局	32	12	10	4	0	0	6
合計	292	33	35	100	37	11	76

※配置可能人数とは？

当日、消防活動・地域活動に携わっていた者及び育児・療養休暇中の者並びに消防本部、総合病院、診療所、幼稚園、保育所(園)の職員は除く

※1その他とは？

命令前に自主的に配置についていた者、電話不通などで連絡が着かなかった者

### 2. 配置時間

	配置可能人数	8月9日		8月10日			その他(※2)
		22時まで	22~24時	0~2時	2~4時	4時以降	
本庁	164	10	9	48	42	46	9
一宮市民局	54	3	4	8	5	28	6
波賀市民局	42	5	5	6	7	14	5
千種市民局	32	4	13	2	3	7	3
合計	292	22	31	64	57	95	23

※その他(※2): 旅行中、通行止めなどにより、配置できなかった者

### 3. 配置場所

	配置可能人数	本庁	一宮市民局	波賀市民局	千種市民局	その他施設	その他(※3)
本庁	164	124	10	3	7	12	8
一宮市民局	54	6	36	1	0	6	5
波賀市民局	42	6	5	24	0	2	5
千種市民局	32	1	2	0	25	1	3
合計	292	137	53	28	32	21	21

※その他施設とは？

防災センター、保健センター、上寺浄水場、給食センター、福祉センターなどの施設

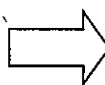
※その他3

旅行中、通行止めなどにより、配置できなかった者

### 4. 緊急配備に関する課題と検討

緊急配備に関する課題

- ①命令時間の遅れ
- ②職員への伝達方法
- ③配置場所



検討の方向性

- ①"情報収集と判断基準
- ②"手段の二重化と事前予告など
- ③"市民局の充実と勤務時間外への対応

職員の活動記録(自由記載欄)

災害対策本部	
本部室	消防防災班
広報班	
総務部	総務班
救助対策部	環境衛生班
	住民福祉班
	保健班
産業部	
水道部	
教育部	

- 職員間での防災訓練を数多く実施し、実際に何が必要で市民に対して何をすればよいかを検証しながら今後の訓練に生かしていくことが大切。指揮命令系統の徹底や偏った任務分担など防災計画の見直しを早急に行い職員全体で取り組む体制をつくるべきと考える。
- 職員召集や避難勧告のタイミング等に課題が残った。特に山崎地区は各自治会への連絡方法が電話連絡のみの為十分な情報伝達ができなかった。避難所の開設や各自治会との連絡体制の見直しが必要だと感じた。
- 災害時に職員がどのように動くかのマニュアルが未策定である。情報の一元管理ができていないことにより職員の動きが重複したり漏れたりする原因にもなり、効率的な情報収集やそれに基づく対策に支障がでたのではないかと。
- 災害対策本部会議での決定・確認事項の周知徹底。(会議要旨等を素早く作成し、全職員に情報配信する。)
- 災害対策本部を所管する企画部の初期出勤体制の見直し。
- 情報の収集とともに早急な情報発信(避難所の情報、被災地の情報その他の情報を検討し、被害の全体像をいち早く市民にお知らせする必要がある。)
- 被災後の対応において、地元は生活の安定のために努力されている。この時に農地等の災害対応を同時に行うことが、地元の負担になっていないだろうか。
- 家屋被害認定が出来る職員を育てる必要がある。また、他団体への応援も配慮する必要があると感じた。
- 被災記録(写真撮影)については、できる限り日数を得ない時期での写真が必要になったことから、そのための体制づくりが必要。
- 職員の配備について、災害発生直後から数日間は市民からの要望や苦情が特に多いと考えられ、地理的な認識も必要ことから住居地に近い場所での職員配置が望ましいと考える。
- 各地区に日常的に情報連絡員を2名配置すれば、状況把握等に役立つのではないかと。
- 山崎町については、自主防災組織(自治会)と消防が連携し、避難状況や被害状況の報告を行う総合的な防災訓練が必要でないかと。
- 集落単位の避難や防災の検証が必要・地域にあった避難行動の確立
- 情報の一元管理
- 避難所において指示が統一されていなかった。避難所マニュアルも必要と感じた。
- 初動体制において待機の時間が多すぎと感じた。
- 被害が大きい市民局とそれ以外の応援体制の確立が必要であると感じた。
- 全ての職員がもっと災害復旧に関われたと思うので、柔軟な体制づくりが必要であると感じた。
- 廃棄物集積場所をあらかじめ用意したい。
- ゴミ運搬の市町応援隊の受け入れ対応、防疫業務の整理等課題が残った。
- 防疫用資材の備蓄倉庫の設置を望む。
- 共有ネットワークホルダーを設置し、情報の共有を図ればと思う。
- 防疫作業について当初から専門業者に委ねるべきでなかったか。(職員への信頼度の問題や数的不備による対応能力など問題点は多かったと思う。)
- 防疫業務と廃棄物処理を一つの課が行うことに無理があったと思う。
- 召集直後の役割を明確にし、迅速な対応が必要。
- 避難所の運営には多くの人員が必要と感じた。増員を望む。
- 今回の災害では、本庁と市民局の連携がうまく働かなかった。市民局の誰がどの分野の担当責任者・指揮をしているのか本庁に伝わっていなかった。本庁がほしい情報、市民局がほしい支援等、連携調整が必要。
- 災害時にすぐに避難所開設ができる体制づくり(近隣宅へ鍵を預ける、近隣の開所担当職員が鍵を持つとか)
- 真夜中の移動は、2次災害の可能性が非常に高く危険を感じた。一宮市民局では現場対応、住民対応で明らかに人員不足であったと思われるので、通常職務とは別の指示、命令系統により速やかに人員配置ができるシステムを検討する必要があると思う。
- 要援護者の安否確認では障害者手帳保持者等の情報は自主防災組織や民生委員等に交付していないため、直接電話連絡が取れない場合には自主防災組織による安否確認に頼らざるを得なくなる。災害時には災害対策本部の決定によって情報開示をして確認可能の運びになっていると思われるため、ルールづくりが必要。
- 命令系統が一元化されていなかったため、本庁・市民局間の判断・指示にずれが見られた。
- 現場でのリーダーや役割、業務が明確でなかった。
- 今回の災害を教訓に公共土木施設、農地・農業用施設及び林道災害復旧の現場測量、設計等の取り組みに対して各部で対応するのではなく、特別係など設置し、技術者等を一箇所に集結させて現場測量から設計等に至るまで対応できればスムーズに進行できるのではないかと。
- 本庁と市民局の指示命令系統を再検討する必要がある。
- 部内での役割分担をあらかじめ定めておく必要がある。
- 配備命令が遅いと思われる。
- 水道の管路網を熟知している職員が少なく対応に苦慮した。また、管工事組合との調整にも課題を残した。
- 災害時に他市町から支援にきていただいているなかで、当該自治体職員の活動調整及び指示、職員の動きが把握できていなかったと感じた。
- 幹線道路の複線化が必要と感じました。災害に強い道路網の整備が必要。
- 死者等がでなかったのは、地域住民が協力して状況を判断し、的確に避難できたことが大きいと思う。普段から地域内の学習や訓練が大切であると思う。
- 現場責任者が誰であるのかを明確にし、その指示・命令系統のもと、職員・ボランティア等が動ける体制づくりができていなかったように感じられた。

職員の活動記録(自由記載欄)

一宮市民局	
本部室	<ul style="list-style-type: none"> <li>現場災害対策本部の設置基準と位置づけの明確化及び配備計画の見直しについて 今回は人命被害がなかったものの避難勧告等の判断など責任を果たさなければならないことから、今後、現地对策本部の果たす役割、判断基準など明確化する必要がある。本庁の迅速な判断による現地对策本部への指示。配備体制において、市民局出身者を多く配置するなど、迅速な対応が処理できる体制が必要。</li> <li>被災後の行政の対応として、被災者の避難所の確保をはじめ浸水家屋の消毒や災害ゴミの処理など迅速な対応が求められている。今回は、ライフラインの寸断により情報が得られないなど市民に多くの不安を与えたのではないかと感じている。</li> <li>電話等不通に対する対応が急がれる。防災無線も活用されたが地域や位置によっては機能しない点が多く見られた。</li> </ul>
消防防災班	<ul style="list-style-type: none"> <li>本庁の決定事項が市民局に伝わっていないことが多かった。また本庁の様々な部署からリストや報告書の提出を依頼されたが現場のバタバタの状況も確認せずに催促されるので、市民局の現場は非常に困惑していた。</li> <li>3号配備を早期に解散し、復旧活動の用の体制をとるべきと思う。</li> </ul>
広報班	<ul style="list-style-type: none"> <li>夜間は避難すべきではないように思いました。もっと早く避難の指示に従って移動していれば危険は少なかったかもしれませんが、福知の方が避難しようとした時はすでに氾濫し真っ暗で危なかったようです。避難しなさいというタイミング、自宅から出ないでくださいという判断、難しいと思いました。人(行政)まかせでなく、それぞれ家族や集落単位で避難する事についてあらためて考え直す機会が必要であると思いました。</li> </ul>
総務班	<ul style="list-style-type: none"> <li>災害発生時と同時に電話が鳴りっぱなしで市民局の少ない人員では対応できなかった。初動の体制と災害復旧の体制を分けて構築する必要がある。</li> <li>災害時における三方出張所の充実。(ある程度の救援物資が備蓄できるよう対策が必要だと考える。)</li> </ul>
環境衛生班	<ul style="list-style-type: none"> <li>消毒の方法について、当初から二転三転し、もっと早い段階での決定をお願いしたかった。危険な業務であったし、このような甚大な被害の際には専門業者に依頼するという選択肢があっただけよかったのでは？保健所の対応も遅かった。(指導に入るなら消毒作業をする前の早い段階で願います。)</li> </ul>
住民福祉班	<ul style="list-style-type: none"> <li>10日避難所に行った時点で自治会長と民生委員から避難状況と要援護者の状況を伝えられすぐに活動を開始することができた。改めて住民自主防災の重要性を痛感した。</li> <li>本庁と市民局の連携が不足していた。</li> <li>避難所運営では地域と行政の信頼関係を早期に築き、市民の役割も明確にすることが必要と感じました。</li> <li>職員の健康管理については、超多忙の中本庁から同じことを何回も聞かれたり、報告を求められたり、現状に合わない指示が続いたことが市民局職員の大きなストレスになっていた。今後は住民と直接やり取りをする(電話対応・窓口対応)職員を被害が少なかった市民局等から応援するようにしてほしい。</li> <li>交通遮断・停電した場合には、要援護者の安否等確認する手段がなく、特に透析患者や在宅酸素療法を受けている方では消防無線に頼らざるを得ないがどのように依頼したらよいのか。</li> </ul>
産業部	<ul style="list-style-type: none"> <li>被害状況からの今回の場合は、1ヶ月くらいは、災害本部を一宮に設置すべきではなかったでしょうか？</li> <li>浸水している家屋からお年寄りを避難させるときに、ゴムボートの必要性を痛感しました。</li> <li>休日、夜間と勤務時間内で職員配置を変える必要がある。</li> </ul>
水道部	<ul style="list-style-type: none"> <li>消防団で活動する中で情報の少なさに困りました。現場などの出先でも携帯電話から見ることで市役所のホームページ(避難場所・交通の状況などの情報)があればと思いました。災害後ホームページに道路状況の情報はありましたが、水や物資の配布等の情報が一切なかったのも気になりました。</li> <li>不眠不休で現場対応をしていたが定時退庁していた職員があったことを後で聞き、愕然とした。</li> <li>発生時以降の配備等の連絡に不徹底の部分があった。災害関連業務の指示系統が、災害本部なのか市民局からなのか本庁からなのか、本来の所属部署からなのか整理がつかずに混乱することがあった。</li> </ul>

職員の活動記録(自由記載欄)

<b>波賀市民局</b>	
本部	消防防災班
広報班	
災害対策部	住民福祉班
産業部	農林業班
	商工観光班
水道部	下水道班
教育部	
<b>千種市民局</b>	
本部	消防防災班
救助対策部	環境衛生班
	住民福祉班
土木部	
産業部	農林業班
教育部	
保育所	
<b>総合病院</b>	
<b>消防本部</b>	

被害状況を早く報告せよとの本庁からの指示で、市民局は10日の早朝から調査に出たが自治会長・農会長に電話等で確認してからの方が効率的であった。被害報告を早く求めすぎで、職員がバタバタただけで精度の高い被害状況はつかめなかった。

被害予想が的確でなく職員の配備や体制づくりが遅れたと思う。

10日の配備職員を解散する時期が市民局に伝わっていなかった。

連絡・指示経路の再確認と徹底が必要。情報の共有が徹底されず情報が交錯した感があった。

命令指揮系統が確立されておらず、初期段階の活動がうまくいかなかった。

指示があれば他の市民局の応援ができたのではないかと。

要援護者の安否確認を社協や介護保険事業所等と協力し、マニュアル化してはどうか。

災害対策から復旧支援へ組織的に体制を整え、全職員を再配置して適所適材で復旧支援に当たることで被害状況の把握から復旧計画まで、スピード感をもって一斉に行い、早期に通常業務に復帰していくと思う。

道路の通行止めの情報をいかに市民に伝えるかが課題である。

被害の大きかった一宮に災害対策専門の課を置くなど、現場職員の負担の軽減が必要ではなかったか。

復旧支援の体制では、地域の実情に通じる職員、専門的スキルを有する職員を地域の被災状況に応じて、適切に配置し、一部の職員に過度の負担がかかることのないよう、またスムーズな住民対応、被災調査を行えるようにすべきであり、現地解決型の一つのあり方であると思う。

家屋の被害調査に参加したが、中央市は調査員の資格を有する職員が少ない。今後他市町への応援も考えられるので、調査員資格を増やすべきだと思う。

国道道の情報をいち早く把握し、職員・市民の情報共有が必要である。

休日・夜間と平日・昼間の配備体制を居住地と勤務地により、2種類に分ける方が良いのでは。

広域避難所に対応する職員をあらかじめ決めておく必要がある。

職員への配備命令、避難勧告の判断基準の作成が必要。

自主防災組織と行政の連絡網の整備が必要。

県への報告を電子データにより迅速に行うことで、対策も講じられるのではないかと。

道路情報などの電話の問い合わせが多くあり、刻々と変わる状況の中で正確な把握が常に必要になったが、市民局のフロアにホワイトボードが置かれ道路状況が書き出してあったので対応しやすかった。

緊急対応のことを考えると各市民局では、地元職員の配属がある程度は必要ではないかと感じました。

年に一度は自治体、社協、病院、消防、警察との一体的な訓練が必要では。

指示命令に課題があったと思う。

自主防災組織で要援護者を守るマニュアルが出来ればと感じた。

災害で発生する多量の土砂の仮置場や残土処分場を予め確保する必要がある。

今後災害時は、各市民局ごとに災害状況の把握、処理状況、復旧の目途ほか、職員間で共有できる体制が必要と感じた。

指示命令がはっきりしておらず、市民説明も迅速に出来なかったと思う。

市単独の農地復旧補助制度は、本庁の関わりを含め事務の簡素化が必要。

災害時の避難指定を受けている施設では、施設管理者が鍵を開けるのですが、避難者の把握や誘導・宿泊体制づくりは誰がするのか、指示がなく困惑しました。9日避難者の宿泊に伴う毛布が届いていなかった。

避難所としての機能を果たすため防災グッズ(懐中電灯・救急箱・ラジオ・ティッシュ・タオル等)など配置していただきたい。

人事異動や臨時職員が多い職場なので、市立保育所としての統一した災害応急体制が必要だと思いました。災害時でも開所しなければならぬ使命を背負っている保育所なのに、地元で職員が一名もいない状況でどう保育を続けるのか。または見合わせるのか。早い段階で判断してもらいたいという意見が多くありました。

職場、職場周辺の被害状況、子どもたちとその家族の安否等、迅速に把握できる緊急時の連絡システムの確立、確認が必要があると強く感じた。固定電話、携帯電話(一部)もつながらず職員間の連絡もままならない状態だった。

市災害対策本部及び市社協の迅速な対応により、透析患者が全員安全に来院できた。

当院給食課職員の危機管理意識について、万が一を想定し、道路寸断前に自らの判断で深夜に出勤し、翌日の入院患者への朝食の提供に支障なく対応できたことについて、この危機管理意識を他の職員への啓発のうえで参考とすべき点が大いにあったと思う。

地震想定だけでなく、水害対応の訓練の必要を感じた。(現在の水防工法訓練でなく、水害想定での総合訓練のような訓練)

災害時には緊急メールを最大限活用し、時間短縮を図るべきであると思いました。また、災害発生の際には、水防指令1号発令時に全職員に対してメール配信し、飲食等を抑えて招集時の職員確保も考慮しておく必要があると思います。

災害発生時に全員が招集されたものの、車両と人員の適正配置が行き届かず、災害対応に苦慮した。平時からの絶対的な人員不足を痛感した。

情報収集のあり方、現消防本部の警備体制から考慮した初動体制の確立(早期時期での人員確保及び広域応援協定に基づいた近隣消防本部の応援要請)、災害の教訓から得た必要器材の充実、市、消防団、警察等各関係機関の情報の一本化(情報が錯綜し、正確な情報が得られなかった。)、任務分担の明確化と連携(各機関の専門分野の特性を有効利用する)などの強化を図る。

今回の災害で各自治会の被害状況を把握するのが困難であったため、今後は災害時のライフライン寸断等も考慮し、自治会単位で防災無線を整備し、災害時にはリアルタイムで自治会の被害状況を対策本部で把握できるなど通信手段を確保する必要があると感じた。